

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）  
2004年9月23日発行 SSKA 増刊通巻第4987号  
SSKA

# ああるぴい

R P 三重支部会報第8号

—◇ はじめに ◇—

第9回三重支部の総会には、63名の参加がありました。  
特に築島先生の講演会には座るところもないほどの、大盛況でした。  
その後での懇親会で、築島先生、宇治先生、宮本先生（前三重大学大学院教授）  
と役員の中でいろんな話題に花がさきました。  
宮本先生が三重ニュージーランド協会で活躍されておられます。  
私たち三重支部も来年で第10回の総会になります。  
それを記念して、三重支部単独でニュージーランド旅行をしてはどのことになりました。  
後日役員会でそのことについて、協議しました。その結果実施することになりました。  
勿論宮本先生には、お世話になりますので、よろしくお願いします。  
みなさんも、多数参加しましょう。

☆ ニュージーランド旅行についての記事もあります。☆

—◇ もくじ ◇—

第9回総会の報告

今が幸せ！

私の出来事

パティー（盲導犬）のおかげ

夫婦って良いな

私の生き甲斐

2005年ニュージーランドの旅 JRPS 三重（案）

JRPS 三重支部に参加して

秋の会員交流会開催のお知らせ

小川 明美

川瀬 清良

木村 靖子

佐藤 親代

肥留間 英美

宮本 忠

山下 タカ子

—◇ 第9回総会の報告 ◇—

1. 平成15年度事業報告

下記の行事を主催または共催し参加しました。

日時	用件	場所	参加人数 (会員)	付き添い 等
4月20日	ALSの総会	とことめの里	支部長	1名
4月29日	三難連の役員会	男女共同参画センター	支部長	
5月11日	本部の定期総会	東京	支部長	
6月29日	定期総会	松阪市福社会館	73名	
7月21日	三難連の総会	男女共同参画センター	8名	
7月21日	役員会	男女共同参画センター	5名	
9月6.7日	支部長会	横浜	支部長	
9月25日	難病支援センターの 設立検討	三重県庁	支部長	1名
10月1日	難病支援センターの 設立検討	三重県社会福社会館	支部長	1名
10月5日	世界網膜の日	大阪	2名	
10月26日	三難連の役員会	男女共同参画センター	支部長	
11月3日	秋の交流会	大仏山公園	29名	
11月27日	RPの生活相談会	鈴鹿保健所	17名	
11月27日	無所属の会との懇談会	三重県議会	4名	
11月29.30日	東海地区リーダー研修会	静岡	6名	
12月6.7日	ハートフルフェスタ	メッセウイング三重	3名	
1月25日	新春交流会	鳥羽簡保保養センター	33名	
2月29日	難病の集い	三重県総合文化センター	3名	
3月14日	支部長会	東京	支部長	
3月21日	三難連の役員会	男女共同参画センター	支部長	

2. 平成15年度決算報告

単位： 円

収入		支出	
用件	金額	用件	金額
合計	666,402	合計	666,402
前年度繰越金	42,402	総会 講師謝礼	60,340
会員よりの寄付寄付	54,000	〃 印刷費	2,972
三難連より補助金	64,000	〃 通信費	3,760
本部より	50,000	〃 会場費	22,693
弁当代	43,200	〃 ボランティア交通費	17,280
参加費	30,800	〃 弁当代	49,600
個人より寄付	250,000	三難連の会費	20,000
新春交流会の参加費	132,000	三難連の総会行動費	12,770
		会報 印刷費	2,882
		〃 通信費	3,322
		世界網膜の日の行動費	5,070
		鈴鹿保健所への行動費	6,320
		東海地区リーダー研修会の行動費	77,220
		ハートフルフェスタの行動費	2,740
		新春交流会 通信費	5,170
		〃 印刷費	1,824
		〃 講師謝礼	29,000
		〃 ボランティア交通費	8,020
		〃 食事代等	116,167
		新春交流会の残金（本部へ寄付）	15,833
		難病の集いの行動費	6,200
		次年度への繰り越し金	197,219

3. 平成16年度事業計画（案）

日付	行事	場所
4月29日	三難連役員会	男女共同参画センター
5月13日	役員会	アスト津
5月30日	難病支援センターについての研修会	津県庁舎
5月30日	難病支援センター検討会	津県庁舎
6月5日	JRPS第1回代議員会	広島
6月6日	全国大会	広島
6月27日	総会	松阪市福社会館
7月17日	三難連総会	男女共同参画センター
7月	役員会	
10月	会報発行	
11月7日	白杖歩行の体験会	
11月	三難連役員会	
1月	新春交流会	北西地区を予定
2月	難病の集い	
3月	役員会	

4. 平成16年度予算（案）

単位：円

収入の部	金額	支出の部	金額
前年度繰越金	197,219	総会、医療講演会費	200,000
JRPS本部より交付金	50,000	交流会費	200,000
三重県難病団体連絡協議会より交付金	58,000	総務費	100,000
総会、医療講演会	150,000	予備費	45,219
交流会	90,000		
総額	545,219	総額	545,219

RP 三重の皆様 お元気にお過ごしでしょうか。  
毎年、会報誌が届けられるのをたのしみに待っている志摩の小川明美です。今回はどなたがどんなことをのせてくれるかを楽しみにしています。

私はここ阿児町の福祉大会で体験発表をさせてもらったときの下書きを、お仲間の皆さんに聞いてもらいたくて投稿しました。

ちょっと長文になりますが見て、聞いて下さい。

「阿児町福祉と私」 鵜方 小川明美 平成 16 年 7 月 20 日

26 年前の春 私は盲学校を卒業し、あんま・マッサージ・指圧師・はり師・きゅう師の資格を手にして、ここ阿児町へ嫁いできました。マッサージ師として賢島のホテルで働きながら、更にはり師、灸師の資格を得るために通学していた人と学生時代から結婚を約束していました。彼の生活を応援するつもりで嫁いできたはずだったのに、半年もしないうちに妊娠していることを知りました。

私達は同じ遺伝性の目の病気でしたから子供は最初の子を一人だけと決めていました。その頃の私は、一人歩きは出来ましたが、回覧板の文字も読みにくく、汚れが見えにくくなっていました。母子手帳の申請の為に役場へ行った時、障害者の為のホームヘルパーの派遣をお願いしましたが、その頃の阿児町には、老人介護の為のヘルパー制度しかありませんでした。

何度かお願いして来てもらえるようになったのは、息子が 1 才半になった頃でした。週に一度 1 時間だけでしたが、子供の爪を切ってもらったり、耳あかを取ってもらったり、書類の書き込みや役場などへの手続きもしてもらいました。時間が足りないと言うことで、ヘルパーさんは事務所で手があいた時に、息子の保育所や幼稚園、小学校へ持っていく物への名前付けや繕い物、面倒な書類の書き込みなどもしてくれていました。

それからしばらくして障害者の為のヘルパー制度も整い、買い物に連れていってもらえることもできるようになりました。買い物に行く時はヘルパーさんに手をつないでもらい歩いて行っていました。週に一度の買い物ですから、二人で持っても持ちきれないぐらいの荷物を、ヘルパーさんにも助けてもらい分け合って持ち、手をつないでもらうこともできずに声をかけてもらいながら歩いて行っていました。障害者の為のヘルパー制度が整った頃には私の視力はほとんどなくなっていました。そのあとヘルパーさんの車に乗せてもらい買い物に行けるようになった時には嬉しくてついつい買いすぎるようなこともありました。

平成 2 年から、ボランティアスクールが開校され、阿児町にはたくさんのボランティアさんが誕生しました。私達視覚障害者のためには朗読ボランティアガイドボランティアグループが誕生し、広報阿児や議会便りを録音テープで聞かせるようになるようになりました。またガイドボランティアさん達にはいろんな所へ連れていってもらいました。磯部町の百合パーク、わたかのじま、波切の灯台や紫陽花寺、御座の白浜、合歓の郷、伊勢神宮へも、あおのみねさんへも連れて行ってもらいました。

阿児町の視覚障害者で作っているアニモと言う会では、阿児町特産物開発セン

ターで夏みかんジュース作りを体験させてもらったり、サンライフあごのフィットネスではストレッチ体操を教えてもらったり、筋力トレーニングも体験させてもらいました。

このように視覚に障害があっても、いろんな所へ連れて行ってもらったり、体験させてもらえるのは、ボランティアさん達のおかげです。

「明美のことはもう心配ない!」と叔母に言い残しこの世を去った母は、私達の周りの皆さんにどんなにか感謝していったことでしょう。

昨年四月からは支援費制度が施行され、今まで以上に自由に出歩くことが出来るようになりました。また二年前からは障害者のデイサービスセンターも開設され、ケーキやクッキー作りを始め、視覚障害者でも便利に利用できる音声パソコン教室もおこなわれています。

私達見えない者にとっては電子メールやインターネットが便利なものになりました。また買い物、通院、会合やお散歩、冠婚葬祭などどこへでも自由に出かける事が出来るようになりました。

ここ阿児町のように障害者が移動する時にはガイドヘルパーさんがひととき福祉人材センターの人となって移動を助けてくれます。

他地域では考えてもらえない、私達にとっては便利な方法です。

「国や県の制度には記載されていないから出来ない!」と言われて、交通の便や施設の恵まれた都会と同じような施策しか実施してもらえない自治体が多い中で、ここ阿児町の福祉に対する考え方に感謝しています。

志摩市になろうとしているこの時、阿児町のこの施策・考え方が他地域と同様になるのじゃないかと気になっています。

阿児町の福祉は私達障害のある者をはじめ、老人、子供達、福祉の手を必要としているみんなにとってはなくてはならないサービスであり優しさなのです。

いついつまでもここ阿児町の福祉に対する施策が変わらないことを願い更に発展することを願っています。

「見えないぐらい何さ!」と小学校の高学年になった息子に言われたことがあります。視力のない私達親にとって、息子が「見えないぐらいなにさ!」と感じてくれていることは嬉しいことでした。地域の皆さんを初め、息子の友達にも私達障害のある親のことをはずかしがったり、疎んじられることなく過ごしてこられたのは皆さんの手助けや、やさしさ、励ましに息子も私達も抱かれ、生きてこられたおかげだと思っています。今ではこの息子の「見えないぐらい何さ!」と言う言葉が障害のある親、私にとって励ましの言葉になりました。

息子や私達の周りの皆さんに感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

ここまでが体験発表で朗読したものです。

皆さんの中で「声のポスト」という三重県の録音ボランティアグループのテープを聞いておられるかたは何人ぐらいいらっしゃるでしょうか。その録音テープ作成の時、年に二度ぐらいリスナーの声を録音してもらおうことがあるのです。以下はその時に投稿した文章です。あちらこちらへ投稿した者を寄せ集めで申し訳ありませんがお許し下さい。

平成16年7月25日のことです。

息子から私達は初めて点字の手紙をもらいました。

それはそれはもう間違いだらけの読みにくい手紙でした。今まで点字の「て」の字も全く知らなかったはずの息子が、京都のライトハウスへ点字板と点字紙を買いに行き、どんなふうに習ったのか？習わなかったのか？わかりませんが、点字で手紙を4枚も書いてくれたのです。きっと、友達に教えられてそうしたのだろうと思うのですが、今まで点字を書いたことのなかったことを申し訳ないとも書いてありました。先日、7月17・18・19日の2泊3日、我が家へ息子の友達8人が息子と共に来てくれました。その時のお礼の手紙でした。晴眼者である息子の友達が来てくれると聞いた時には「どうしよう！どうしたらいいの？」と不安になりました。でも私は息子が友達を私達障害のある親の元へ連れてこようとしているのですからいやだとは言えませんでした。私達のように視力のない親を友達に紹介してくれると言う息子の気持ちを粗末にしたくなかったのです。

息子の読みにくい手紙の中に、友達が私達障害のある親のことをなんのわだかまりもなく普通に接してくれていたことを喜んでいました。それにその友達と一緒に我が家で講習会を受けた時の先生や父親の知人への感謝の気持ちが書いてありました。このように周りの人たちに感謝できるようになった息子の成長ぶりをたのしんでいる親ばかな私です。(ここまで)

こんなふうになるまでにはいろいろなことがありました。

中学生の時、「親に反抗できないような子は大人になってからこわいんだって。」と聞きました。その言葉通り中学生時代、高校生の頃は毎日のようにぶつかり合っていました。ある日高校生になった息子が初めて「友達5人を泊まらせていいか？」と尋ねました。中学生時代は全く女の子と一緒に過ごしてるなんて見たことも話にも聞いたことなかったので、うっかり「いいよ」と承諾してしまいました。そうしたらどう言うことか、男の子二人と女の子3人だと言うのです。女の子が我が家へ泊まるならば女の子の親が我が家へ連絡してくれるか？あるいは私からその女の子の家へ電話して泊まらせることを承諾してもらってからでないだめだ！と言うと、大喧嘩になって息子に家出されたことがあります。幸いその時、息子の友達やその親の手助けを受けて3泊4日の家出が無事に解決したことがあります。その他にもいろんなことでとまどったり困ったり泣いたり怒ったり笑ったり・・・このように対立したり喧嘩できたのも、視力にこそ障害があっても家族みんなが健康に過ごせたからだと思います。

見えないことは不自由ですし、情けないこともつらい時もありますが、今音声パソコンを利用して遠いところに住んでいる友達にアツと言う間にメール便を届けたり、インターネットでいろんな情報ももらっています。また同じ視覚障害者の仲間達との遠慮ない会話や集いをたのしんでいます。もしも私が視覚に障害がなければ今頃パソコンとは無縁な世界で、友達ともこんなふうにたのしんでなんかいられなかったのじゃないかと思っています。私達のこの網膜色素変性症という病気は視力こそ失いますが、元気、やる気、その気になればなんだってできそうです。さあ！ 皆さんその一步を踏み出して下さい。

私がこのような病気を初めて知ったのは、別の病気で内科に入院した昭和 62 年 10～11 月の 35 日間のち翌年の 1 月頃です。

ある日車を運転中、前方を走行している車のナンバープレートに見えない部分が有ることに気づき、これはおかしいと思い眼科医に行き検査していただきました。視力と視野の検査でしたが視野検査の方はこの時が初めての体験でした。検査結果は視野狭さくで、この病気は治らないと先生に言われました。治らないのなら仕方がないと思い、この時一回きりで眼科医にはもう足をはこぶことはありませんでした。

次に眼科医を訪れたのは平成 8 年で前回とは別の所でした。少しずつ視野が狭くなり特に夜は見づらく感じたからです。検査の結果、この時初めて正しい病名「網膜色素変性症」と知りました。

そして平成 10 年 7 月、運転中に交差点左側より出てきて止まった車を見落とし、車両前部をむしり取る様な物損事故を起こしました。当日廃車手続きをし、その日以来車の運転を辞めました。以後は通勤も電車に変えましたが、私には慣れないことで最初は多少苦労しました。乗車中、目のやり場に困り単行本をよく読んでいましたが次第に寝ていることが多くなりました。

職場では、同僚たちが目の必要な作業は助けてくれました。会社側にも少々大目に見ていただき、無事定年まで勤めきる事ができました。定年一年程前から中心部分がほとんど見えず、外の周りの視野のみで作業していたのですが、今思うと自分で言うのもなんですが、よく頑張ったなと思います。

現在は何も仕事はしておりませんが、視力・視野は少しずつ悪くなっている様に感じます。この辺で止まってほしいと願っています。



今年は何のすごい暑い夏でしたが私が中部盲導犬協会で訓練を受けた夏も暑かったです。和歌山で毒入りカレー事件がおきた時でした。早いもので、7年が経過したのです。

訓練を受けるようになったとき、私は目が悪くなって退職して家でゴロゴロする生活が十年余りになっていました。筋肉は衰えるしからだは、脂肪に覆われていました。

パティと毎朝毎夕歩くようになった私に近所の方が「スッキリして来たね」と声をかけてくれるようになりました。体重は変わらなくても体脂肪が減り、体力が付いたことが実感されます。

おかげでいろいろな所へ参加させて頂いています。コーラスに行くときには松阪まで同乗させて頂く都合でパティは留守番をして貰うのですが、これはすぐからそうでしたので今でも「母さんは歌のお勉強に行ってくるからね。」というとおとなしく待っていてくれます。

他のことで出かける用意をしようものならもう、待てずに2階の私に向かって「早く早く。行こうよ。」と、うるさいことです。

コーラスの練習で長く立っていなければならぬ時、以前は足が痛くなったり肩がこったりしたものでしたが年齢が増してきたのにもかかわらず若い人に負けないくらいです。

二年前からダンスも始めました。筋肉の弱った足では無理ではなかったかと思えます。そして、このダンスのおかげであまり歩けない夏にも足が弱らぬようにおれるようです。

八歳を目前にした去年の夏から秋にかけてパティは体調がよくなって、食欲の無い日もあり、止まってしまっただけ歩かないこともありました。更年期障害とも聞きましたが、家を建て替えるための騒音や落ち着かないためにストレスがたまったことも原因かもしれません。

餌をシニアに代えたことや、キュウリが出来てからは毎食後一本ずつ食べさせているのでか今年は体調も良く、皮膚の張りも良いようです。別れも近いかと思われた去年と違って、12歳までは大丈夫かと思うこの頃です。

7年も一緒にいるとちょっとした身振りや気配などで何を言おうとしているかこちらも判ります。「おしっこしたいの」と聞くと「そう、そう」とばかり首を振って答えます。ブラッシングを忘れていると「まだ、してもらってないよ」と訴えてきます。暑い日中には「クーラーつけて」と言っているのが判ります。会議が長くなってやっと終わろうとしたとき立ち上がってきたので「帰りたいの」と聞くと「うん、うん」とうなずくので感心されます。

別れの時が来るまでパティを娘とも、介護できなかつた亡き母とも思っただけ大切にしていきたいと思っています。

私は、全盲になり8年ほどになります。予期していたこととは言え、突然襲ってきた闇の世界にうろたえ、のた打ち回りました。現実を受け止めるのに2年ほどかかりました。

一時は暗い闇の世界なら、死んでしまったほうがいいのではと、考えた時期もありましたが、家族の愛、特に夫の励ましが思いとどまりました。「見えんようになったものはしょうがない、如何にこれから、明るく、楽しく、前を向いていくのを考えよう！」言ってくれた一言で立ち直れました。

中途失明者訓練、視覚障害者協会の入会、などを経て現在はパソコンにはまり、メール等を楽しんでいます。パソコンにより1～2年前には考えられない、明るい世界がひらけたのです。目が見えていたらこの年齢になってパソコンなんてとても考えられないことです。今は余計な事を考える暇もなく、追いかけている日々です。

夫は平成13年に視覚障害者ガイドヘルパーを取得して今では、盲導犬ミッチー(夫は道夫です)として支えていてくれます。

調理師をしていましたが定年を契機に仕事をやめ、私の手足となり二人で、二つのまなこを共有して前へ、前へと、明るさを求めて突き進んでいます。結婚して30数年泣かされたことも何度かありますが、今では359度の変身で私を大事にしてくれます。全盲になったことにより夫婦の絆は、がっちり強固なものになりました。(ときどきけんかもしますが)

パソコン、民謡、工芸、旅行、色々楽しみを作って第2の青春をしています。目が見えなくとも、心の優しさがあれば、明日は明るくみえます。

明和町の肥留間英美と申します。私は、40歳で網膜色素変性症との診断を受けました。その時は大変ショックを感じました。でも、少し落ち着いてから、考えましたら私はとても幸運な時期に発病したのだと思いました。なぜなら、我が家の住宅ローンの返済がもう残り一年になっておりましたので、それが終わるまで働くことができましたし、二人の子供も、社会人となり、どうにか自立している状態でした。もしも眼病でなかったら、定年を迎えるまでまだ15年は働く予定でした。

それに、若い頃から老後は趣味をと、楽しみにしていました民謡のおどりが、できなくなり、これもショックでしたが、こちらも幸運にも、民謡で歌う事の楽しみを見つけ、とてもよい楽しみとなりました。それと若いときに少し習った三味線にも挑戦してみましたら、なんとか現在もつづけられていますので、とてもうれしいです。

民謡は、皆様もほとんどしっておられると思いますが、自分で歌をおぼえて歌ってみますと、どこの地方の民謡にもすごくひきつけられます。日本のすみずみまでに広がっている歌なので、行ったことのある土地はなつかしく感じられるし、旅行してない土地には、すごく行って見たくなります。私は伊勢の生まれなので、伊勢音頭が大好きです、以前はおどりを楽しんでいましたが、その伊勢音頭を歌ったり三味線をひかせてもらったりできるのも、おかしい言い方ですが、眼病のおかげではないかと、考えてしまうのは私だけでしょうか？

人間はどのような人でも、明日の事はまったくわからないと思います。それなら自分の病気を思い煩ってなにもしないで、クヨクヨして大切な自分の時間をそまつにしたら、もったいないですよ！こんなふうに自分に都合よく物事を考えてしまう私なので、家族にはずいぶんめいわくなことでしょう。願わくばこんな私をみすてないで、これからも面倒みてください。

## 1 ニュージーランドの魅力

第一に、自由で個性的な人々

公園で寝そべっていると「この町好き？」と気楽に声をかけてくれる市民。朝、白杖をついて散歩していると、遠くからでも「大丈夫？」と声がかかる町。

第二に、自然との共生

アザラシが海岸で遊んでいる。山歩きが生活の中に。

第三に、大自然と牧場

国中に広がる牧場と世界自然遺産。万年前の氷河に雪をいただく山々。そして火山、温泉。

第四に、伝統を基礎、現代が融合

イギリスを中心にしたヨーロッパの伝統に、挑戦的なニュージーランド人がつくりあげた庭園、都市美

第五に、先住民とニュージーランド

マオリ文化、芸術と現代の共存

## 2 2005年ニュージーランド訪問の旅

参加するみなさんのご意見、ご要望を宮本までお寄せください。

(電話) 0593-68-2112

(e-mail) ty1005@mecha.ne.jp

訪問時期： 2005年6月

旅費： 一人15万円以内（航空運賃、バス代、宿泊施設、食事）

行程： 五泊六日

マオリ、温泉、湖、森林、牧場などなどのロトルア三日間  
百万都市オークランド一泊（機中泊）

利用航空機： ニュージーランド航空

出国入国飛行場： 名古屋 — オークランド

主要見所：

- ファカレワレワ地熱帯とマオリ村
- ハムラナスプリングスとタウポ湖畔
- ワイトモ鍾乳洞と土ボタル
- 牧場
- オークランド
- 視覚障害者施設

もう何年前になるか記憶に定かではありませんが、河原支部長さんからお電話があり、支部からのお知らせなどは点字か墨字かそれともテープ、どちらにいたしましょうかとお尋ねくださいましたので、私は点字で御願いしますとお答えしました。

その後何度もお電話や文書を通して御丁寧なお言葉で音楽会、交流会などお知らせくださったのですが、出席する勇気がなかなかわいてきませんでした。

2年くらい過ぎた頃、会員数も増え地域別に分かれて内田順朗さんからご連絡を頂くようになりました。

2002年第7回総会に思い切って出席いたしました。

その時私はびっくりいたしました。お若い方が大勢おられ、しかも皆さん聡明で明るくのびのびと生きておられ感動いたしました。又教えられることがいっぱいあることを感じました。なんだか平安な気持ちになりました。

小川裕子さんとお友達になることができ、これからは行事に参加しようと思いました。

総会、交流会、リクリエーションなどの企画のなかで必ず教えられることがあります。それが日常生活に密着していることも感謝です。

スペイン村への企画は残念ながら雨のため実現しませんでした。大仏山公園へのハイキングはとても楽しかったです。又みかん狩りは寒かったですが、新鮮なみかんをいっぱい頂き満足感を覚えると共に貧しい国の人たちのことが浮かんできてもったいない気持ちに駆られました。お弁当をいただき、その後皆で輪になって童謡、唱歌を合唱し、少女時代にタイムスリップしたような気分になりリフレッシュすることが出来、爽快な気持ちで帰宅することが出来ました。

今年2004年新春交流会での講師、JRPS 大阪支部長橋本富雄さんの講演「たとえそうであっても元気になろう」というお話は感動いたしました。まるで映画を見ているようでその情景の一コマ一コマが頭の中に浮かんでくるようで、話の中に吸い込まれていくようでした。神様が共にいてくださっているような錯覚に陥りました。体験していることには力があり説得力があると思いました。

これからも出来る限り行事に参加させて頂き、お交わりを通していろいろ教えていただき日常生活に生かしていきたいと思っています。

—◇ 秋の会員交流会開催のお知らせ ◇—

” 白杖を体験してみましよう”

「視力が低下してきた」「視野が狭くなってきた」「人や物にぶつかりそうになった」「自分で何とか外出したい」「できれば他人の世話になりたくない」そのように思っている会員さんも少なくないでしょう。

単独で外出できることは自立への第一歩です。

今回の交流会は専門の歩行訓練士による白杖体験会です。

一度限りの体験では独力で杖を使って歩けるようにはなりません、**「歩行訓練を実際に受けてみよう」**というきっかけになれば幸いです。

日時 平成 16 年 11 月 7 日（日曜） 13 時より 16 時

場所 津市 三重県男女共同参画センターサークル室および会館周辺

講師 NPO 法人アイパートナーの歩行訓練士

会費 不要

集合時刻と場所 当日 12 時 10 分に近鉄津駅西口改札口前、  
または 12 時 50 分に会場のサークル室に直接お越し下さい。

津駅西口から会場のある総合文化センター方面には、  
三重交通バス津駅西口発 12 時 22 分総合文化センター行、総合文化センターで下車を利用しますが、これに間に合わない場合には、12 時 40 分発夢が丘行にて総合文化センター下車があります。

申し込みについて 10 月 30 日までに担当の内田順朗まで申し出て下さい。

(電話) 059-262-4465

(e-mail) robin103@ztv.ne.jp

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）  
2004年9月23日発行 SSKA 増刊通巻第4987号  
SSKA

—◇ 編集後記 ◇—

1. 平成17年度には三重県にも難病支援センターができます。わたしはその検討委員として会に参加しております。

皆さんがどのようなセンターになったらいいかと思ってみえる意見を、わたしまでお聞かせください。

2. ニュージーランド旅行については、内容などが決まりしだいに、逐次お知らせをさせていただきます。

3. メールをされている方で、まだ支部長までメールアドレスを連絡していただいている方は、是非連絡をお願いします。メールだと経費と時間が大幅に短縮されますので、ご協力をお願いします。

4. 今年は秋の交流会として、白杖体験を計画しました。是非参加してください。

発行人：障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧6-26-21

編集：RP三重会報編集部 河原洋紀

〒515-0847

松阪市岩内町614

（電話・FAX） 0598-58-2664

（e-mail） [hk2664@aqua.ocn.ne.jp](mailto:hk2664@aqua.ocn.ne.jp)

定価200円